

地域コミュニティの今後の在り方に関する市民アンケート【令和4年度調査】

1. 背景・目的

- ① 本市では、H22年に「地域コミュニティ基本指針」を策定し、「校区まちづくり協議会」の形成を進めるとともに、H28年4月には「大牟田市協働のまちづくり推進条例」を施行し、協働の推進を図ってきた。
- ② しかしながら加入率の低下や担い手不足等、恒常的な課題が解決されないまま深刻化しており、加えて、近年ではコロナ禍に伴う各種地域活動の休止等が、地域団体の組織力や活動力に影響を及ぼしている。
- ③ 地域コミュニティ組織において恒常的な課題となっている「加入率の低下」や「地域の担い手不足」等に焦点を合わせた調査研究等を行い、今後の地域コミュニティ施策の方向性を導き出すことを目的とする。

2. 調査の方法・項目

(1) 対象

大牟田市住民基本台帳の中から、令和4年12月1日現在で30代から60代まで、各年代500名、合計2,000名を対象に抽出。

(2) 回答者数・回収率

回答者数：685人（郵送460人・Web225人）

回収率：34.3%

(3) 調査時期

令和5年1月19日～令和5年2月9日

(4) 主な調査項目

- ・地域コミュニティ組織への加入状況
- ・地域組織への加入を阻害している要因
- ・地域組織へ加入していない層が加入するために、必要な環境整備とは
- ・コロナ禍による地域活動への影響の度合い
- ・市民活動団体と地域活動の連携の可能性 など

3. 主なアンケート結果

(1) 地域コミュニティ組織への加入について

【報告書：6ページ】

- ① 「加入している」が45.4%で最も高く、「加入したことがない」の37.7%、「加入していたがやめた」の16.1%と続いている。
- ② 回答者特性別では、「加入している」割合が高いのは、年代別では「50～59歳」・「60～69歳」、家族構成別では「三世代で同居」・「夫婦のみ」であり、「加入したことがない」割合が高いのは、年代別

では「30～39 歳」「40～49 歳」、家族構成別では「単身」「子ども同居(小学生以下の子供がいる)」となっている。

問1 地域コミュニティ組織への加入の有無		
	度数	%
加入している	311	45.4
加入していたがやめた	110	16.1
加入したことがない	258	37.7
無回答	6	0.9
合計	685	100.0

(2)「加入している」と回答した人で「組織に加入してよかったこと」「活動の継続意向」について

【報告書: 11・14ページ】

- ① 加入してよかったことは「隣近所と顔見知りになりコミュニケーションが取れる」が 49.5%で最も高く、次いで「防犯灯の設置があるので安心感が得られる」が 48.6%となっている。
- ② 活動の継続意向については、約 7 割(69.8%)の方が「今後も活動を続けたい」と回答している。

問3 組織に加入してよかったこと		
n=311	度数	%
活動が楽しい	14	4.5
災害にあった時など相談できて心強い	56	18.0
隣近所同士で子育て等について情報交換ができる	21	6.8
子どもの通学時での声掛けなどをしてもらい安心感が得られる	43	13.8
防犯灯の設置があるので安心感が得られる	151	48.6
隣近所と顔見知りになりコミュニケーションが取れる	154	49.5
学校や行政との繋がりができる	23	7.4
地域や周りの人の役に立っている実感がある	30	9.6
その他	41	13.2
無回答	9	2.9

問4 活動についての継続意向		
	度数	%
はい	217	69.8
いいえ	80	25.7
無回答	14	4.5
合計	311	100.0

(3)「加入している」「役員等を経験したことがある」と回答した人で「役員等を引き受けて困ったこと」について

【報告書: 18ページ】

- ① 「会費等の集金」が最も高く 30.4%。また、集金に関連したものとして「防犯灯電気料の集金」も 14.8%となっている。
- ② 回答者特性別では、年代別では「30～39 歳」、家族構成別では「子どもと同居(小学生以下の子供がいる)」で「会議への出席」の回答割合が最も高くなっている。

問6 役員等を引き受け困ったこと		
n=115	度数	%
会費等の集金	35	30.4
防犯灯電気料の集金	17	14.8
運動会・清掃など地域活動への人集め	31	27.0
未加入者への勧誘	20	17.4
会議への出席	29	25.2
会議等での意見調整	8	7.0
資料作成などの事務作業	24	20.9
住民への連絡	28	24.3
その他	10	8.7
無回答	10	8.7

(4) 「加入している」と回答した人で「新型コロナウイルス感染拡大により変化したもので今後も継続したいこと」について 【報告書: 24ページ】

- ① 「活動の頻度や規模の維持(コロナ禍を契機にスリム化した現在の状況が良い)」が最も高く 36.0% となっている。
- ② 回答者特性別では、「40～49 歳」は「活動の頻度や規模の維持」、「SNSの活用」、「会議の書面開催」等の割合が他の年代よりも高く、「60～69 歳」では「感染対策を徹底した対面での活動」の割合が他の年代よりも高い。

n=311	度数	%
SNSの活用	78	25.1
ZOOM等を利用したインターネット会議	27	8.7
活動の頻度や規模の維持(コロナ禍を契機にスリム化した現在の状況が良い)	112	36.0
感染対策を徹底した対面での活動	107	34.4
会議の書面開催	50	16.1
その他	18	5.8
無回答	29	9.3

(5) 「加入していたがやめた・加入したことがない」と回答した人で「加入していたがやめた・加入したことがない理由」について 【報告書: 26ページ】

- ① 「時間がとれなくなった・時間がないから」が 32.1% で最も高く、次いで「加入のきっかけがなかったから」27.4%、「役員になりたくないから」26.1%、「近所づきあいがわずらわしい」20.4%と続いている。
- ② 回答者特性別では、「30～39 歳」が「加入のきっかけがなかったから」、「会費等を払いたくないから」等の割合が他の年代より高い。

n=368	度数	%
時間がとれなくなった・時間がないから	118	32.1
興味・関心のある(魅力のある)活動が行われていないから	51	13.9
動員があるから	48	13.0
会議や行事などが多いから	58	15.8
近所づきあいがわずらわしいから	75	20.4
役員になりたくないから	96	26.1
会費等を払いたくないから	32	8.7
子育て世代(30～50代)の参加が少ないから	22	6.0
子どもが小学校を卒業したから・小学生の子どもがいないから	51	13.9
加入のきっかけがなかったから	101	27.4
地域コミュニティ組織がないから・地域コミュニティ組織がなくなったから	43	11.7
その他	54	14.7
無回答	16	4.3

(6) 「加入していたがやめた・加入していない」・「時間が取れなくなった・時間がないから」と回答した人で「継続及び加入可能な時間、最も活動しやすい時間帯」について 【報告書: 29・32ページ】

- ① 活動時間についての問いでは「1年間に1時間程度」が 46.6% と最も高い。
- ② 最も活動しやすい時間帯は、「平日の夜」が 23.7% と最も高く、次いで「休日の午前」22.9% と続く。

問10(1)① 継続及び加入可能な活動時間		
	度数	%
1週間に1時間程度	2	1.7
2週間に1時間程度	2	1.7
1ヶ月に1時間程度	15	12.7
3ヶ月に1時間程度	19	16.1
1年間に1時間程度	55	46.6
その他	21	17.8
無回答	4	3.4
合計	118	100.0

問10(1)② 最も活動しやすい時間帯		
	度数	%
平日の午前	8	6.8
平日の午後	10	8.5
平日の夜	28	23.7
休日の午前	27	22.9
休日の午後	15	12.7
休日の夜	6	5.1
無回答	24	20.3
合計	118	100.0

(7)「加入していたがやめた・加入していない」・「役員になりたくないから」と回答した人で「役員を引き受けても良い条件」について 【報告書:43ページ】

- ① 「役員の負担が少なくなるよう行事をスリム化する」が 33.3%で最も高く、次いで「役員の負担が少なくなるように会議や連絡にSNSを活用する」31.3%となっている。
- ② 回答者特性別では、「40～49 歳」は、「役員の負担が少なくなるように会議や連絡にSNSを活用する」の回答が高い。

問10(6) 役員を引き受けても良い条件		
n=96	度数	%
役割に応じた手当を受け取る	13	13.5
役員の負担が少なくなるよう行事をスリム化する	32	33.3
役員の負担が少なくなるように会議や連絡にSNSを活用する	30	31.3
役員の負担が集中しないように役員を増やす	11	11.5
役員の任期が設けられている	19	19.8
その他	19	19.8
無回答	17	17.7

(8)「加入していたがやめた・加入していない」・「加入するきっかけがなかったから」と回答した人で「加入を検討しやすいきっかけ」について 【報告書:52ページ】

- ① 「友人・知人からの案内」が 37.6%で最も高く、次いで「チラシによる加入方法の案内」・「ホームページやSNSでの加入方法の案内」が 33.7%で続いている。
- ② 回答者特性別では、「60～69 歳」が「友人・知人からの案内」の回答が最も高くなっている。

問10(10) 加入を検討しやすいきっかけ		
n=101	度数	%
直接、地域コミュニティ組織の役員による加入方法の案内	21	20.8
市の職員からの加入方法の案内	17	16.8
チラシによる加入方法の案内	34	33.7
ホームページやSNSでの加入方法の案内	34	33.7
地域活動に参加した際の加入の案内	12	11.9
友人・知人からの案内	38	37.6
その他	5	5.0
無回答	6	5.9

(9)「加入していたがやめた・加入していない」と回答した人で「加入したいと思う組織」について

【報告書:58ページ】

- ① 「活動をスリム化して気軽に参加できる組織」が42.4%で最も高くなっている。
- ② 回答者特性別では、「40～49 歳」は「輪番などで強制的に役員等をさせられない組織」や「事務を担当する人がいる又は外部委託を行うなど役員の負担が少ない組織」の割合が他の年代よりも高くなっている。

問11 加入したいと思う組織		
n=368	度数	%
災害への備え、清掃活動、防犯活動、お祭など活動が活発な組織	51	13.9
子ども会など子育て支援が充実している組織	52	14.1
コミュニティビジネスに取り組む組織	17	4.6
輪番などで強制的に役員等をさせられない組織	107	29.1
事務を担当する人がいる又は外部委託を行うなど役員の負担が少ない組織	87	23.6
活動をスリム化して気軽に参加できる組織	156	42.4
活動自体が少ない組織	74	20.1
その他	19	5.2

(10)「加入していたがやめた・加入していない」と回答した人で「希望する地域情報の認知経路」について

【報告書:61ページ】

- ① 「LINE」が36.1%で最も高く、次いで「地域コミュニティ組織が発行する情報紙」が35.6%となっている。
- ② 回答者特性別では、「30～39 歳」「40～49 歳」は「LINE」や「地域コミュニティが発行する情報紙」、「ホームページ」の割合も高くなっている。

問12 希望する地域情報の認知経路(媒体)		
n=368	度数	%
地域コミュニティ組織が発行する情報紙	131	35.6
回覧板	40	10.9
ホームページ	118	32.1
フェイスブック	17	4.6
ツイッター	35	9.5
LINE	133	36.1
インスタグラム	53	14.4
その他	6	1.6
無回答	69	18.8

(11)「市民活動に参加している」と答えた人で「現在の活動と地域コミュニティとの連携の可能性」について

【報告書:71ページ】

- ① 「できる」が68.9%で約7割の人が地域コミュニティ組織と一緒に取り組むことができると回答している。
- ② 「できる」と回答された活動で最も多かったのは、「子ども健全育成」で10人、次いで「まちづくりの推進」7人であった。

問16 現在の活動と地域コミュニティ組織とのコラボの可能性		
	度数	%
できる	31	68.9
できない	8	17.8
無回答	6	13.3
合計	45	100.0

4. 実践者の考察及びヒント

(1)考察

- ①入会している人・入会していない人に共通して「時間的・経済的余裕がない」状況が伺える
※ これは大牟田市の特異的な傾向ではない
- ②近所付き合いやつながりづくりを疎ましく感じる傾向が特に若い世代で多く見られる
- ③子ども・防犯・防災への活動の取り組みの意義は認めている

(2)ヒント

- ①参加者の敷居を低くしあらゆる世代の声をキャッチしよう(ヒント1)
→ 地域コミュニティの活動は苦役と見られかねないが、ブームになっている行事をうまく取り込みながら参加の敷居が低く感じられるようにする
- ②広報PRの刷新を(ヒント2)
→ 「こうありたい」という方向性の言語化、伝えたい相手方の掘り下げ、独自キャッチコピーづくり
- ③楽できる場所は大いに楽を(ヒント3)
→ 活動者にやさしい最適のサイズにしていくために、デジタルツールの活用や、事業・運営のスクラップ&ビルドを行うことが必要

(3)考察のまとめ

「地域住民のリアル」を直視した上で、地域コミュニティの意義を温存しながら組織および事業を大きく刷新するような方策が不可欠である。

魅力的で持続可能な事業・組織づくりに向けた「時勢に即したリノベーション(自己変革)」を図る必要がある。